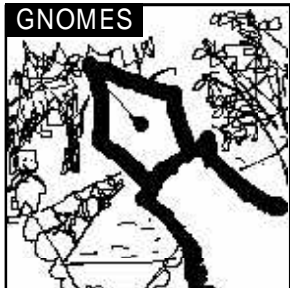


ノーム通信80

2003-2

〒130-0026 東京都墨田区両国 4-30-4-1109

GNOMES



このところ原稿作業が続いていて精神的に追いつめられる事が多くなっています。白い紙の上になにかを作!出すというのは軌道に乗るまで迷っている時間が長く、特に連載の最初というのはそれからあとの世界を決めてしまうのでより一層緊張する。安易に決めてしまえば後から後悔しながら1年を書き続けなければならないからだが、そう言った時期に他の人の文章や絵を見ることは出来るだけやらないようにしている。これだけ膨大な量の文や絵が氾濫しているのを目にしながら小器用な手先の技だけで新たにまた書き足す勇気などしほみ消えてしま

うからだ。書く意味など考え始めたら今更何を書こうと言うのかと思う。万巻の書は書き尽くされた。」と絶望感に暗い目をしたのははるか昔、ギリシャあたりの哲人であったか。それからまた万巻の書のセットのそのまた幾万倍も書き尽くされ読み尽くされたで後で今更何を書こうと言うのか。書かれたものがたった数十年後にはもう跡形もないだろうと思う。書く勇気など消し飛んでしまう。それでも飯を食わねばならんと思って体勢を立て直し立ち向かって行く。それはもう自分の世界だけにどっぴりどひたりこんで錆びて曲がりかけた槍を抱えて未知の世界に突貫するようなもので、まるで大きな風車の羽に槍を構えて突撃するドンキホーテのようなものではないか。滑稽の中に悲しみすらある。

日本語の豊かさに飢える時、開高健の文章や司馬遼太郎の語り口に浸る。言葉の華に浸りたいときは唐詩選や、漢詩の数々や万葉集に浸ってみる。そんなレベルの中で小手先の文章など書けるわけがないであろうが。などと言いつつガード下でこぼれた酒のしみを見ながら相変わらず飲んでいる。考えてみたら食うために働くことはそれ自体えらいことなのだ、現況調査でどぶの中を這い回ると同じなのだから同じ努力をすればそれでいいのだと今更ながら思う

先日知人が定年の挨拶にやってきた、「35年やりました。」と言ってさわやかに笑ったが、そのほとんどを一緒に闘った事を思った。いっしょに沢山の橋を架けてきた。そんな事を思い出しながら、過ぎていった35年とはなんだったのかと酒をなめつつ自問した。もういかにげん自信を持って生きていてもい頃なのに書くことでさえまだ揺れているのがなげけない。それでも一杯の酒を飲むと少し自信が戻ってきて、もう一杯飲むとなんでも出来る気がしてくる。そうしてまた夜の浅草をふらふらと自転車車で抜けていく頃には頭の中は沢山の作りたいたものがわき上がってきてかつにも身体が一つしかないのが見えなくなっているのだ。「いのち短し、がんばれおじさん。」である。元気をださなくては。

ノームはこのごろ冬ごもりです。時々来る人たちにコンピュータの使い方などを教えたりしています。早く春が来ないかと思っています。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com